

平成22年度第4回薬学教育FD/ICT活用研究委員会議事録

日時：平成23年2月23日（水）14:00～16:00

場所：私情協事務室

出席者：松山委員長、黒澤副委員長、斎藤委員、大嶋委員、大谷委員、松野委員
梶原アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、平田職員

議題：学士力（コアカリ）の到達目標および到達度を達成するのに必要なICT活用の効果的な事例の提示

前回の議事内容に従い、委員会当日までにメール上で作成・修正を行った以下2項目の提示原案について、討論した。

1. 基礎学力の充実とリメディアル教育資料 2-1

事務局より、5年先の事業として通用するようなものとして考えた場合、このモデルでは汎用なリメディアルになっていて、薬学に特化していないのではないかとの意見が出た。これに関しては、大谷をはじめとする担当した委員から。薬学モデルコアカリに即して、

- ・薬学教員が項目評価を行う。

- ・問題に共用試験 CBT や国試を参考にする

- ・コアカリの SBO をタグ付けする

ことで、薬学に特化した基礎学力向上を目指しているとの解答した。また、そのために、

- ・薬学部教員自らが問題の抽出およびコアカリとの関連付けを行う事がじゅうようで、これを原案に盛り込んでいる。

- ・ICT という面では、クラスター解析を導入する事によって、特に低学年での自分の弱点を統計学的に可視化する事で、自分の学力を客観的に見つめることが可能であるとの特徴があり、高学年で問題解決型の学習を行うための基盤を構築できる。

- ・リメディアルにおいて CBT 形式による問題データベース構築を行い、各大学で演習を共有できる

という特徴を説明した。

以上の事を勘案して、内容は問題ないが「薬学教育」という面を強調した文言に修正を加える事が必要との見解を得た。また、薬学部教員による問題抽出に具体例をあげ付け加える事とした。

2. 総合力学習モデル資料 2-2

自己学習能力形成プログラム(CPD モデル)→発展学習(SGD)というかたちでの、上級学年での問題解決型学習を想定した。

- ・自己学習能力形成プログラムでは、step by step で自己の実力の評価を行う。
- ・発展学習では、モデルとして緩和療法をテーマとし、他職種間（医薬看護）連携を模索したチーム医療モデルで発表を行い、職種間連携のための相互理解を目標とする。

医師に対する位負けの是正→職種間連携によって薬剤師のレベルを上げる。そのとっかかりとして癌治療を題材とする。

医療費の破綻を見据えて、在宅癌化学療法を修得できるようにする。

ここで重要になるのは、構造式から薬を把握する化学者かつ薬のスペシャリストとしての薬剤師の果たす役割が医療の現場（緩和、投与モデル）で特に重要になる事を強調する。この過程では、構造式、副作用情報などによって医薬品について知ることの重要性を学生に理解してもらう。

特に、このモデルでは、リメディアルとの差別化で、上級学年で応用力を身につける事を目指した。

内容に関してはコンセンサスが得られた。ただ、私情協という観点から ICT の活用を盛り込むために、前半の CPD ではアドバイザーの必要性を追加し、後半は SGD として他学部との連携に Skype, LMS の導入を盛り込むこととした。

私情協としてはこれらのモデルを提示する事で社会への発信+社会からのフィードバックにつなげる予定である。

以上の議論を元に、上記2モデルについて、残りはネットの上で文言の修正をかける事とし、修正案を 3/1 までに提示、最終的に 3/11 までに完成させる事とした。

以上